

学年	特に育成したい能力や態度 (<u>具体的な数字や言葉で記載する</u>) 2～3にしぼる。	授業改善の視点と具体的な方策 (具体的に達成すべき数値目標を記載する) 左側のものとリンク【対応させる】	達成率【割合】 A・・・90%以上の児童 B・・・90～80%の児童 C・・・80～70%の児童 D・・・70%以下の児童
3年	- 問題→予想→実験→考察→まとめの流れを理解し、理科の学習の流れが分かる。 - 実験や観察の結果を、ノートやワークシートに分かりやすくまとめる。 - 予想や考察では、他者との交流を通して、自分の言葉で論理的に表現することができる。	- 問題、予想、実験、考察、まとめのマグネットを黒板に貼り、授業に見通しをもたせる。 - 授業の流れと同じノート作りをすることで、ノートに整理しやすくする。 - 図や表を使ってまとめることを意識させるために、表の部分だけを印刷して貼ったり、教師が図や絵の見本をかいいたりする。 - 考察の話型を提示し、論理的な思考力を身につけさせる。 - I C T端末を用いて、全体での意見交流の場を多く設ける。	(成果) 問題作りの過程を意識しながら、学習することができた。(B) (課題) 実験結果から分かったことを自分の言葉で表現することに課題がある。
4年	- 学習内容に興味や関心をもち、意欲的に取り組むことができるようする。 - 実験の際は、既習の内容や生活経験を基にしながら予想を立て、予想の根拠を説明できるようにする。 - 実験結果から分かったことを、考察として自分の言葉でまとめたり、説明したりすることができるように育てる。	- 単元の導入で、児童の生活経験を基にした教材(教具や話題)を準備し、日常生活と関係があることを感じとらせながら学習内容に入る。 - 予想を立てる際に、児童が予想すると考えられる言葉を用意し、児童に順に聞いていく。やり方に慣れてきたら、予想する考えを一人一人に書かせるようにし、発表させていく。達成率80%を目指す。 - 実験でまとめた表やグラフから実験結果を客観的に捉えさせる。また、生活経験を振り返られながら、自分の言葉でまとめさせる。最初の頃は、教師の板書する文章を真似させ、書き方に慣れさせる。慣れてきたら、一人一人自分の言葉で書かせていく。達成率80%を目指す。	(成果) 実験結果に様々な違いが出ることを体験して学ぶことができた。(B) (課題) 実験結果の考察が十分にできなかった。(C)

5 年	①実験の予想をさせる際に、根拠が説明できるようにする。 ②実験から分かったこと、考察を自分の言葉で書けるようにする。	①児童の生活経験を基に、実験結果を予想させる。なぜそのような結果になるのか、理由や根拠を挙げさせる。予想を交流させることでモデルとして、いろいろな考え方や視点に気付けるようにする。【達成感80%】 ②考察の文型を示し、参考にして書けるようにする。次第に支援を減らし、自力で書けるようにスモールステップの指導をする。【達成感80%】	(成果) 実験結果を予想し、理由や根拠を言える児童が多くなってきた。考察の文型に当てはめて書けるようにもなってきた。 (課題) 文型がなくても自力で書けたり、日常生活を振り返って書けるようになる必要がある。
6 年	① 予想を立て、実験を経て分かったことを理解する力を身に付けさせる。 ② 身の回りの事象に疑問を見出し、課題を解決する力を養う。 ③ 安全な器具の使い方を学び、実践する。	① 予想を立てる際は、互いの意見を交流させる。また、結論や考察では、学習内容と身の回りの事象とを関連付けて書かせ、知識として定着できるようにする。 観察や実験をどのような目的で行うのか、目的意識をしっかりもたせ、観察や実験に臨ませる。(達成率 80%) ② 全体での交流場面や、友達との交流場面を設定することや、個別に対応する中で言葉を引き出すことで、説明の仕方を身に付ける。(達成率 80%) ③ 動画教材による視覚的な理解と説明と実演による実際の使用法の理解を進める。(達成率 100%)	【成果】日常の事象と関連付け、動画等視覚教材を用いたことによって理解は深まっていた。(達成率B) 【課題】交流や説明の場面では、児童間のスキルの差がある。発表でのスライド等のまとめは難しかったように思えた。